

## 静岡てんかん・神経医療センター情報誌

令和元年 春 第58号

# あかり

A K A R I

3月26日は  
パープル・デー

パープル・デーとは、てんかんについて理解を深めてもらうための国際的なイベントです。当日は紫色の物を身につけて過ごします。

- 平成から新しい時代へ ——— 1
- 第43回 てんかん専門セミナー ——— 2
- リハビリテーション研修会/臨床検査セミナー — 3
- パープルデー静岡2019 ——— 4
- 3月26日はパープルデー ——— 5
- てんかんの市民公開講座と個別相談会を開催しました 6
- 外来再診の診療体制/医療連携室 ——— 7
- はじめて当院を受診される方へ/当院へのアクセス/本 8

## 平成から新しい時代へ

1989年1月7日、昭和天皇の崩御を受け昭仁天皇が即位され、平成の時代が始まりました。そしてこの度、皇太子徳仁親王への譲位により、平成から新しい時代が変わろうとしています。静岡てんかん・神経医療センターも井上有史院長の定年退職に伴い、新しい時代を迎えようとしています。私、高橋幸利が新院長に、今井克美臨床研究部長が新副院長に就任し、静岡てんかん・神経医療センターの診療の更なる充実を計っていくことになりました。よろしくお祈りします。

静岡てんかん・神経医療センターは、①てんかんの入院外来診療、②神経難病の入院外来診療、③重症心身障がい児者の入院診療と通園を行っています。

す。これらの診療を充実させるために、理学療法士(8名)、作業療法士(6名)、言語聴覚士(2名)、心理療法士(6名)、ソーシャルワーカー(5名)、児童指導員(4名)、保育士(9名)などを多数採用しており、障がいの緩和、社会福祉制度との橋渡しを積極的に行ってきています。お困りのことは、スタッフにご相談ください。

### ① てんかんの診療

ハーバード大学のW.G.Lennox教授の元へ留学された和田豊治先生に始まる当センターのてんかん診療は、全国のてんかんセンターの先駆けとなり、てんかん診療に不可欠な長時間ビデオ脳波検査などを充実させてきました。現在では一晩に16名の長時

間ビデオ脳波検査(終夜脳波)が可能となっています。人的にも20名のてんかん学会専門医、8名の小児神経学会専門医を含め、多くのコメディカルスタッフとの多職種症例検討を行い、一人一人の患者さんに合った、より良い治療を見つけ出すよう努力しております。

新しい時代には、多くの客観的なデータに基づく治療選択ができるように、世界で開発されている新しい薬剤をより早く導入できるように努力し、多くの患者さんの発作がよくなるように尽力して参ります。患者さん方のご協力をお願いいたします。また、MOSESやfamosesといった患者学習プログラムを利用して、てんかんのある人が積極的に病気に取り組み、自立できるようにする活動を一層深めてまいります。

## ② 神経難病の診療

神経難病にはパーキンソン病、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症、多発性硬化症などの治療が難しい病気があり、神経内科専門医を中心として、リハビリテーション部門(理学療法士、言語療法士、他)などとのチーム医療で総合的ケアを行ってきました。また、静岡市の「認知症疾患医療センター(地域

型)」に指定いただいております。認知症の鑑別診断、身体合併症への対応を行い、地域担当者等との連携推進を行っています。

2019年4月から神経難病担当の神経内科医師を増員し、充実した体制で、多くの患者さんのより良い診療に努めてまいります。世界で開発されている新しい薬剤をより早く導入できるように、努力して参ります。患者さん方のご協力をお願いいたします。

## ③ 重症心身障がい児者の診療

重症心身障がい児者病棟は4病棟あり、約160名の患者さんにご利用いただいております。在宅重症心身障がい児者の方々に日中活動の場を提供するための通所支援事業(生活介護・児童発達支援)では、専任のスタッフにより、利用者の状況や状態に応じた個別支援計画を作成して、在宅の重症心身障がい児者の方々に必要な支援と福祉サービスの提供を行っています。また、重症心身障がい児者の方の宿泊を伴う、医療型短期入所事業(ショートステイ)を行っています。

新しい時代に向けて、医療型短期入所事業をより利用しやすい形にできるように検討して参りますので、よろしくお願いいたします。

(院長 高橋 幸利)

## 第43回 てんかん専門セミナー



2月14日木曜日、第43回てんかん専門セミナーが開催され51名の参加がありました。

このセミナーはてんかんを持つ成人に関わる看護師・介護福祉士・介護支援員・生活支援員等の方々を対象としててんかんに関する知識、生活支援を行う際の留意点、指導機関と医療との連携について理解を深め、また、専門職同士が情報を共有し、援助の在り方を考えるためのセミナーです。

- 1.「日常生活で遭遇するてんかん発作の正しい理解」：川口医師
- 2.「てんかんを持つ人の日常生活」：石原てんかん看護院内認定看護師
- 3.「てんかん患者さんの高次脳機能障害」：山崎作業療法士

にそれぞれの立場から講義をして頂き、最後に施設見学を行いました。



受講者の皆様は熱心に聴講され、質疑応答も専門職としての経験や問題点等を踏まえた熱い討議となりました。

終了後のアンケートからは、「てんかんの病態・発作の対応について事例ごとに紹介されイメージしやすかった。」「発作時の対応の実演がわかりやすい」とのご意見が多数ありました。

また、「講義時間が短かった。」「個人質問面談時間を設けて欲しい。」との積極的なご意見も多く頂きました。今後のセミナーの参考とさせていただきます。

放射線科 副診療放射線技師長 松田 雄一郎

## リハビリテーション研修会

2019年2月2日に40年以上に渡り小児・重症心身障害児者のリハビリテーションに従事されている理学療法士の金子断行先生を講師としてお招きして、「重症児の呼吸と嚥下 ～二次障害の予防と抗重力姿勢の必要性～」と題する研修会を開催いたしました。当日は当院の看護部門、療育部門、リハビリ部門以外に近隣の支援学校の先生を含めた46名もの参加者がありました。

研修内容は、呼吸や嚥下についての基本の確認から、日々の現場での現象をどのように捉えるかを参加者の経験や解釈を確認しながら実技を交えて説明して頂きました。

今回の研修は参加者が受動的に聴講するのではなく、能動的に研修に参加する事で研修内容の理解を深める講師の意図から、講義中講師から参加者に多くの質問が投げかけられ大半の参加者の方が戸惑う様子がありました。しかし、後半は参加者の方から能動的に発言される機会が増え、研修内容を講師、参加者の共同で進めていく展開となりました。



ご協力頂いたアンケートでは、「それぞれの患者さんに合った方法でやるにはどうしていったらよいか考えなければならぬと思いました」との感想もあり、今回の研修を通して患者様一人一人に最良な関わり方を、その都度自分自身で能動的に考え、動く大切さを改めて感じました。

リハビリテーション科 主任理学療法士 高橋 伸寿

## 臨床検査セミナー

当院では毎年、脳波検査を行う臨床検査技師を対象として臨床検査セミナーを開催しています。

今回は、2019年2月5日に開催をしました。

このセミナーの目的は、『基礎知識を含めた脳波検査の実際、電極の付け方から脳波の判読に関する技術の向上とてんかん発作時の対応方法について習得する』です。

参加者は、神奈川・愛知・金沢・岐阜・奈良・京都・大阪・福岡・鹿児島といった様々な施設から、脳波検査の経験が1年～10年の10名の方が参加されました。

臨床検査技師 佐倉 裕二

## パープルデー静岡2019

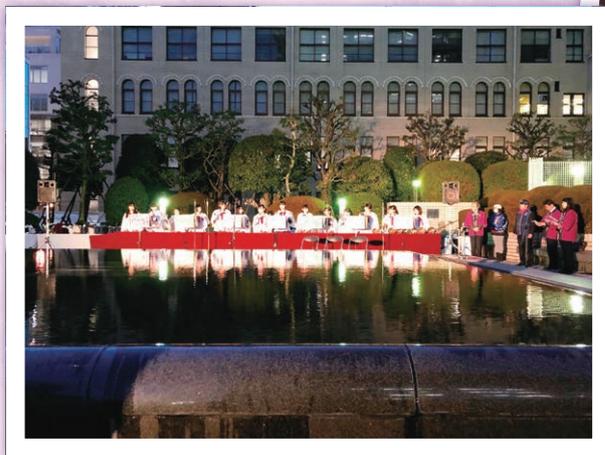
2月12日(火)からパープルデー当日(3月26日(火))まで、静岡市役所本館あおい塔ドームを紫色にライトアップしました。4年連続となりますパープルデーのライトアップですが、今年はおおい塔ドーム内の灯りがLEDに更新されたため、今まででより一段ときれいなライトアップになりました。セレモニーには今年も田辺静岡市長と静岡けやきライオンズクラブ会長をお迎えし、静岡英和女学院ハンドベルクワイアの皆さんがハンドベルによる素晴らしい演奏で華を添えてくださいました。

3月23(土)、24日(日)には、静岡市役所裏手の青葉シンボルロードにて、SBS春まつり「まちスタ」にもブース出展により参加しました。静岡けやきライオンズクラブさんによるラベンダー苗やペーパー挟みの配布があり、ブースの周りに度々人だかりが出来たため、沢山の方にパープルデーを紹介することができました。

パープルデーは、てんかんについて理解を深めてもらうための国際的なイベントで、当日は紫色のものを付けたり飾ったりします。

一方、院内では3月始め頃から紫の飾り付けをしていき、3月25日(月)にはパープルマンの来院やマジックショーの開催などがあり、多くの入院患者さんと楽しい一時を過ごすことが出来ました。今年は、外来ホールに「紫のねがい」と名付けたツリーを設置し、患者さんやご家族、職員等がてんかん等の病気に対するさまざまな思いや願いを紫の短冊やプレート等書き込んで徐々に飾り付けていきました。パープルデーの当日には本当に沢山の紫に染まり、皆さんの思いや願いがとても強く感じられ、来年以降も啓発活動を継続していきたいと思いました。

(企画課長 森谷 長)





この日、世界各国の人が、てんかんをもつ人への応援のメッセージをこめて「紫色のもの」を身につけます。日本でも各地で講演会や様々なイベントを通して、みんなが楽しみながらてんかんへの理解を深められるよう普及活動を行っています。

静岡てんかん・神経医療センターでは、3月25日にパープルデーイベントを開催しました。3月から少しずつ院内が紫色に染まりはじめ、患者さん、ご家族とともに制作したアート作品や、みんなの思いを記したカードが散りばめられたツリーが玄関にお目見えし、外来に見えた多くの患者さんが足を止めてくださり、啓発の一環としても大変賑わいました。

病棟では、マジシャンによる手品ショーや、パープルマンの訪問など様々なイベントが行われました。小児病棟には、昨年に引き続きパープルマンが登場し、入

院中の子どもたち、ご家族とふれあい、病棟は笑顔で溢れました。幼いながらもてんかん発作と向き合い、検査や治療に日々明るく頑張っている子どもたち、そしてその子どもたちを傍で懸命に支えるご家族へ、病気や病気がもたらすスティグマに負けないように、自分らしく前を向いて輝けるように、パープルマンが愛と勇気を届けてくれました。きっと、大人になっても子どもたちの心の中にパープルマンとの思い出は生き続け、助けてくれると信じています。

パープルデーをきっかけに、てんかんへの理解を深め、これからもみんなで助け合う社会を目指していきたいと思います。そしてみんなが幸せでありますように。

(A4病棟 副看護師長 原 稔枝)

3月26日はパープルデー

## てんかんの市民公開講座と個別相談会を開催しました

経営企画室長 柴田 淳

講演内容：「こどものてんかん」

「おとなのてんかん  
(高齢者のてんかんを中心に)」

「発作の介助の実演」

日 程：平成31年2月24日(日)

場 所：プラサ ヴェルデ  
4階401会議室(静岡県沼津市)

共 催：国立病院機構静岡てんかん・神経医療センター  
(公社)日本てんかん協会 静岡県支部

参 加 者：一般市民42名  
個別相談6件

### 【概要】

静岡てんかん・神経医療センターは、平成27年11月に静岡県よりてんかん地域診療連携体制整備事業における「てんかん診療拠点機関」の指定を受けました。

このたび、平成31年2月24日(日曜日)に、「てんかん診療拠点機関」の役割の一つであるてんかん患者さんやその家族、地域住民等への普及啓発として静岡県東部地域の沼津市において、(公社)日本てんかん協会静岡県支部と共催で「市民公開講座てんかんの講演と個別相談の会」を開催しました。

参加者の方々には熱心にメモをとりながら聴講される方もいらっしゃり、質疑応答も活発に行われ、非常に盛況でした。



当センターは、静岡県のてんかん拠点機関として、てんかん診療に関する医療機関連携体制・治療体制の整備や、患者さんと家族に対する相談支援、また、医療関連職や福祉・教育職の為の研修事業、てんかんに関する正しい知識の普及啓発を行っています。

引き続きこれからも、市民公開講座、相談会等や専門職対象とした研修会等を行い、てんかん医療の質の向上に貢献出来る医療機関として努めて行きたいと考えています。



# 診 療 体 制

## てんかん科

午前の診療時間は8:30~12:00 午後の診療時間は13:00~16:30

診察室	曜日	初 診					再 診				
		月	火	水	木	金	月	火	水	木	金
第1診察室								山崎	川口	山崎	白井
第2診察室				久保田		久保田	久保田	池田仁 <small>午前のみ</small>		久保田	
第3診察室			今井		白井		今井		荒木		近藤
第4診察室	日吉				日吉			鳥取	日吉		日吉
第5診察室							池田	池田浩	池田浩	寺田清	寺田清
第6診察室							芳村			芳村	松平
第7診察室								荒木		美根	山口
第8診察室	高橋				高橋	今井		西田	高橋		
第9診察室			寺田清	池田			重松			大谷	大谷
第12診察室	西田	松平 <small>(第1,2,4,5週)</small> 芳村 <small>(第3週)</small>		重松	荒木 <small>(第1,3,5週)</small> 松平 <small>(第2,4週)</small>	西田 <small>(第1,3,5週)</small> 山崎 <small>(第2,4週)</small>					

## 神経内科

■ 初診

診察室	曜日	月	火	水	木	金
第10診察室	午前	寺田	小尾	小尾		小尾
	午後	小尾	小尾	小尾		小尾
第11診察室	午前	杉浦 <small>(再診あり)</small>	杉浦	寺田達		山崎/馬場國
	午後			寺田達		尾内 <small>(第4週)</small>

## 特殊外来

転倒予防外来	随時	小尾
認知症疾患医療センター	月・水	小尾
遺伝相談	随時	高橋、小尾
禁煙外来	随時	池田仁
ねむけ外来	月	寺田清
包括的てんかん外科初診外来	火	白井

再来診療は予約制です。予約が出来ない場合は午前中にお越しください。

## 地域医療連携室のご案内

医療機関間のコミュニケーションを円滑に行なうために、医療連携室(予約センター)を設置しています。ご利用ください。(平日)

T E L ■ 054-246-4580(初診)  
054-246-1065(再診)

F A X ■ 054-246-4607

予約センターの受付時間

●9:00~12:30 ●13:30~17:00

E-mail ■ renkei@shizuokamind.org

当院では、脳波、筋電図、誘発電位、脳磁図、終夜ポリグラフ、CT、MRI、SPECTなどの検査が可能です。共同利用も可能です。

上記、医療連携室にお問い合わせください。

## 広報誌編集委員会

編集人 ■

寺田 清人      松下 剛      池ヶ谷和美  
矢嶋 隆宏      佐倉 裕二      葛城 裕幸  
堀田 真子      高橋 輝      井上 和哉  
大山 敏生

発行 ■ 令和元年5月10日

国立病院機構

静岡てんかん・神経医療センター

〒420-8688 静岡市葵区漆山886

T E L ■ 054-245-5446

F A X ■ 054-247-9781

U R L ■ <http://www.shizuokamind.org>

E-mail ■ shizuoka@shizuokamind.org

## はじめて当院を受診される方へ

### ◆診察は予約制になっています◆

#### 1 受診のための手続きは…

予約は、本人・家族は予約センター(054-246-1065)、病院からは地域医療連携室(054-246-4580)  
その際、ご本人の氏名・性別・生年月日・住所・電話・保護者氏名をお尋ねいたします。電話をいただきますと、その場で受診日を決め、折り返し当院からくわしい書類をお送りいたします。

#### 2 緊急を要する時は…

受診日は病状に応じてできるだけ対応いたしますので、緊急を要する時はその旨をご連絡ください。

#### 3 紹介状について

現在すでに病院へかかっておられる方は、主治医の紹介状があることが望ましいですが、なくても結構です。紹介状がない場合は別途費用(2,700円)がかかりますので、ご了解ください。病院からの資料もあれば望ましいですが、なくても結構です。

#### 4 セカンドオピニオンについて

セカンドオピニオンもお引き受けいたします。

#### 5 静岡市認知症疾患医療センターについて

認知症の受診やご相談は専門医療相談 ☎054-246-4608

## 当院へのアクセス access

バスをご利用の場合	<ul style="list-style-type: none"> <li>JR静岡駅前、北口バスターミナル5番線より静岡鉄道バスにて、こども病院線「67 こども病院・神経医療センター」行に乗車、終点の「静岡神経医療センター」で下車。全所要時間は約30分。片道料金は大人360円、小児180円。</li> </ul>
タクシーをご利用の場合	<ul style="list-style-type: none"> <li>JR静岡駅前(北口)より乗車。所要時間は約20分。料金は2,500円程度。</li> </ul>
お車の場合	東京方面から
	<ul style="list-style-type: none"> <li>東名高速清水インターより、静清バイパスを静岡方面に向かい、千代田・上土出口から流通センター通りを北へ約3分。所要約20分。</li> <li>御殿場JCTで新東名高速道路へ乗換。新静岡ICより、案内板に従い直進。所要時間約7分。</li> </ul>
名古屋方面から	<ul style="list-style-type: none"> <li>東名高速静岡インターより、国道1号線を清水方面に向かい、長沼交差点を左折、流通センター通りを北へ約10分。所要約30分。</li> <li>新東名高速道路・新静岡ICより、案内板に従い直進。所要時間約7分。</li> </ul>



## 本

### ●抗てんかん薬ポケットブック(改訂第6版)

【日本てんかん協会、2016年】

禁忌、重大な副作用、重大な副作用疾患別症状、体内動態と主な副作用、相互作用、抗てんかん薬プロフィール、新規抗てんかん薬の開発状況、Q & A、識別コード(錠剤のみ)を掲載。

### ●てんかん症候群(第5版)

～乳幼児・小児・青年期のてんかん学～  
【中山出版、2014年】

てんかん学の「ブルーガイド」として世界的に普及している「Epileptic Syndromes(原書第5版)」の日本語翻訳版です。4版よりも10%以上ボリュームが増え、より詳しい内容になり、他では決して得られない極めて貴重なてんかん発作の動画付き。静岡てんかん・神経医療センターのスタッフが総力をあげて翻訳しています。

### ●てんかんをめぐるアート展2016

【日興美術社、2016年】

当院が主催した第50回日本てんかん学会学術集会の折りに、「てんかんをめぐるアート展」を開催しました。その図録です。全国から集まった160点を収録しています。当院にて入手可能です。

### ●プライマリ・ケアのための

### 新規抗てんかん薬マスターブック(改訂第2版)

【診断と治療社、2017年】

「副作用のない治療によるてんかん発作の完全抑制」は、治療を担当する医師および患者さんとそのご家族にとって、切実な願いです。2006年以降、「新規抗てんかん薬」とよばれる新しい抗てんかん薬が順次発売され、今後しばらく、新規抗てんかん薬の発売が続くと予想されています。本書は、これらの新規抗てんかん薬の使い方をわかりやすく解説したものです。小児と成人に分けて、エビデンスやガイドラインに基づいて、当院のスタッフがわかりやすく執筆しています。当院高橋幸利先生の編集です。

## てんかん情報センターのご案内

てんかんに関するさまざまな情報を集積したセンターが外来棟1階にあります。どうぞご利用ください。次の活動を行っています。

- 1 てんかんに関する書籍・雑誌・ビデオなどの閲覧・貸し出し(自己学習)
- 2 ホームページによる情報提供 <http://epilepsy-info.jp/>
- 3 てんかん協会との連携
- 4 医療などの相談(予定)